

製品名: p73 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15669**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、ラット、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|---|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000 |
| 分子量 | 70kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | TP73 |
| 別名 | TP73; P73; Tumor protein p73; p53-like transcription factor; p53-related protein |
| 遺伝子 ID | 7161.0 |
| SwissProt ID | O15350 |
| 免疫原 | 抗血清は、Lys321 の非アセチル化部位周辺のヒト p73 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 281-330 |

背景

腫瘍タンパク質 p73 (TP73) ホモサピエンス この遺伝子は、ストレスや発達に対する細胞応答に関与する転写因子 p53 ファミリーの

メンバーをコードしています。この遺伝子は、神経芽腫やその他の腫瘍で頻繁に欠失し、複数の腫瘍抑制遺伝子を含むと考えられている染色体 1p36 上の領域にマッピングされます。この遺伝子が単一对立遺伝子発現していることが実証されており（おそらく母親の対立遺伝子に由来）、神経芽腫の候補遺伝子であるという考えを支持しています。この遺伝子については、選択的スプライシングや代替プロモーターの使用に起因する多くの転写バリエーションが見つっていますが、一部のバリエーションの生物学的妥当性や完全長の性質は決定されていません。[RefSeq 提供、2011 年 2 月], 補因子: サブユニットあたり 1 つの亜鉛イオンを結合します。、疾患: ヒト癌のさまざまな細胞株で頻繁に変異する染色体領域にマッピングされます。 p53 とは対照的に、ヒトの癌において頻繁に変異することはないと思われる。神経芽腫および乏突起膠腫ではヘミ接合性が観察される。、ドメイン: 酸性転写活性化ドメイン、中央 DNA 結合ドメイン、および ABL チロシンキナーゼ SH3 ドメインに結合する C 末端オリゴマー化ドメインを有する。、ドメイン: WW 結合モチーフは WWOX との相互作用を媒介する。、機能: DNA 損傷に対するアポトーシス応答に関与する。転写活性化ドメインを含むアイソフォームはアポトーシス促進性であり、このドメインを欠くアイソフォームはアポトーシス抑制性であり、 p53 および転写活性化 p73 アイソフォームの機能を阻害する。腫瘍抑制タンパク質である可能性がある。誘導: DNA 損傷によって誘導されない。転写活性化ドメインを欠くアイソフォームは遺伝子誘導を阻害します。、その他: RANBP9 との相互作用により活性化および安定化されます。、PTM: アイソフォーム α (アイソフォーム β はそうではありません) は Lys-627 が SUMO 化されており、プロテアソーム分解を促進しますが、転写活性には影響しません。、類似性: p53 ファミリーに属します。、類似性: 1 つの SAM (無菌 α モチーフ) ドメインを含みます。細胞内局在: DNA 損傷に反応して核内に蓄積します。、サブユニット: p53/TP53 および CABLES1 との複合体中に存在します。C 末端オリゴマー化ドメインは ABL チロシンキナーゼ SH3 ドメインに結合します。HECW2 と相互作用します。アイソフォーム β はホモタイプ的に相互作用し、p53/TP53 と相互作用しますが、アイソフォーム α は相互作用しません。アイソフォームガンマは、ホモタイプ的に相互作用し、すべての p73 アイソフォームと相互作用します。アイソフォームデルタは、アイソフォームガンマ、アイソフォームアルファ、およびホモタイプ的に相互作用します。アイソフォームアルファとベータは HIPK2 と相互作用します。アイソフォームアルファは RANBP9 と相互作用します。アイソフォームベータは WWOX と相互作用します。、組織特異性: 脳、腎臓、胎盤、結腸、心臓、肝臓、脾臓、骨格筋、前立腺、胸腺、膵臓。胎児組織で高発現しています。、

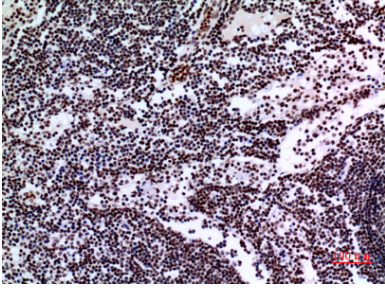
研究分野

p53; 神経栄養因子;

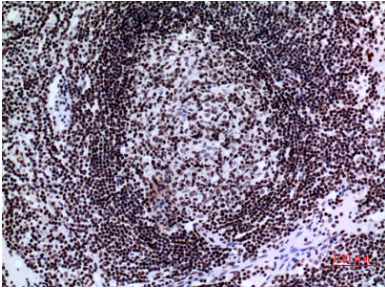
画像データ



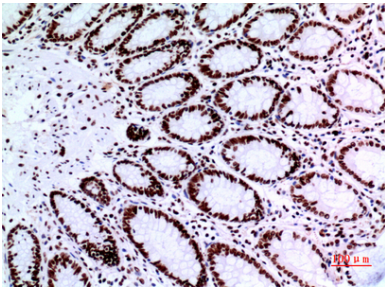
p73 ポリクローナル抗体を使用した Jurkat 細胞のウェスタン ブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。



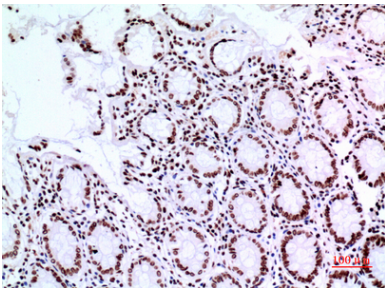
パラフィン包埋ヒトリンパ腺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



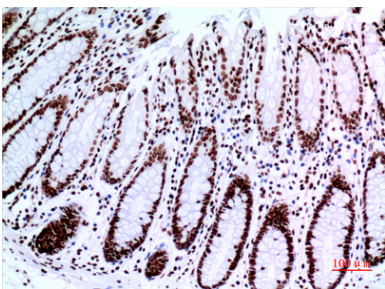
パラフィン包埋ヒトリンパ腺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



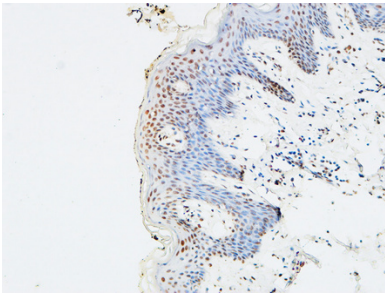
パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



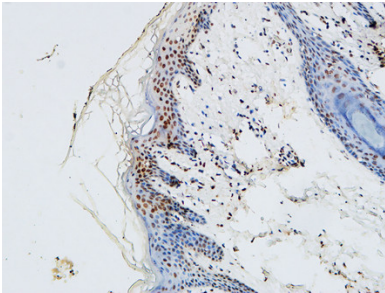
パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



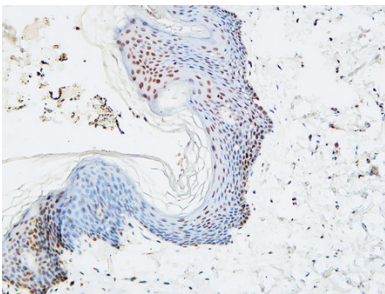
パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト皮膚の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト皮膚の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト皮膚の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。